

第4回春日井市町内会活動支援検討会議 議事録

1 開催日時 令和5年8月30日（水）午後1時30分～午後3時30分

2 開催場所 春日井市役所 11階 1101会議室

3 出席者

【座長】	椚山女学園大学教授	谷口 功
【委員】	白山町内会連合会会長	天野 美穂
	元上条区長	安藤 秀司
	弥生区長	大西 弘
	宮町町内会役員	鈴木 克幸
	元東野連合区長	瀧川 公資
	区長町内会長連合会長・牛山区長	平出 幸広
	元押沢台南町内会長	吉田 和江
【事務局】	市民生活部長	足立 憲昭
	市民生活部市民活動推進課	課長 川島 浩資
		課長補佐 米倉 利隆
		主査 亀田 浩史
		主任 久松 周平
		主任 徳村 政臣

【傍聴者】 0名

4 議題

(1) 町内会への支援の方向性について

5 会議資料

- 資料1 町内会活動支援に向けた方向性
- 資料2 町内会活動支援に向けた方向性と各主体の役割
- 資料3 補助制度の見直しの方向性

6 会議の公開及び議事録について

会議は公開とし、議事録は要点筆記とする。事務局から今回の議事録署名人として、谷口座長と平出委員を指名する。

7 議事内容

議題に先立ち市民生活部長、座長より挨拶。

(1) 町内会への支援の方向性について

【事務局 亀田】

資料1、2及び3に基づき説明。

【谷口座長】

資料では、春日井市としては町内会活動を維持していくという方向性を示している。目指すべき目標や、資料中で何か過不足があればご意見をお願いしたい。

【鈴木委員】

デジタル化に関して、コストがかからず便利である反面、高齢化が進む中、回覧板のようなアナログな方法も、何かあったときの安否確認など、つながりを作る意味があると思う。会って話ができる、顔を見ることが出来るデジタル化というのにも検討してほしい。

【谷口座長】

顔の見えるデジタル化というのは、背反するものではなく、面白いと思う。方向性、特に目標に関して、現実的に町内会がいないというような声も、市民の中にあるかと思うが、ここは、この方向性でいくということで、「市民、町内会、市が共通認識を持って、互いの役割と責務を

自覚し、連携してまちづくりを進める。」という前提で、「市民が」ということを問われる。この理解をより浸透させていきたい。

【鈴木委員】

「誰でも役員になることができる組織」について、「長」がつく立場で、取りまとめを行う町内会長さんというのは、ある程度リーダーシップや文書事務の経験が必要になると思うが、どういう意味での「誰でも」なのかというのがわかるとよい。行政が連携やフォローをすることがわかるような表現があるとよい。

【谷口座長】

行政として「誰でも」というのは、どのような範囲を想定しているか。

【事務局 亀田】

実際には事務能力や、リーダーシップも必要になると思うが、これまで町内会長を担っていた世代が現役で働いていたりする状況があり、人材に限られる中で、町内会側にも事業をスリム化していただき、市からも協力依頼事項等を見直すなど、町内会の業務的な負担を減らしていき、仕事を持ちながらでもできるようにするなど、状況を少しでも改善したいという意図で「誰でも」と記載している。

【谷口座長】

究極的な目標は本当にすべての人というイメージだと思うが、すべての町内会でできるかどうかは別として、年齢、性別、仕事の有無、持ち家の有無、あとは国籍といったことも含めて、役員になる条件のうちどういう条件を外していけばよいかを考えてもよい。

【吉田委員】

広報のデジタル化については、紙があることが前提だと思う。安否確認の意味でも、デジタル化によって、横のつながりを作ろうとしている状況を断つようなことはしてほしくない。役員の負担軽減は、デジタル化でできる部分もあると思うので、その意味では進めてもらえばよいが、市民の声が届きにくくなることは避けてほしい。

町内会に属していない方に対して、どのように普及して、理解してもらい、参加してもらうかを考えないと、どんどん孤立していく家庭が出てくるので、町内会側も壁を作らず受け入れる体制が必要だと思う。

私の町内会では、横のつながりが強く、いろんなグループが活発に活動しているが、これをそのまま次の世代に引き継ぐことはすごく難しいと思うので、次の世代や、子育て中の家庭をうまくつなげるような方策を考えるのが一番必要なことだと思う。

【谷口座長】

大前提として、町内会は世代間のつながり、横のつながりを作るための組織であり、価値がある。横のつながりを、加入していない人も含めてどのように作っていくのかを考えたい。

本来は顔の見える仕組みづくりの一つに広報や回覧板があるにもかかわらず、個別化や電子化によって、ますます横に繋がる根拠がなくなっていくというジレンマがある。

どちらがよいということはないが、例えば回覧板の個別配付やゴミの戸別回収にすることで、ますます町内会の存在意義がなくなり、必要なくなっていくところもあれば、スリム化したからこそ、また活動が充実していくところもある。

今後、町内会の業務の整理、仕分けをしていく中で、最終的には市民自身が、地域で町内会をどうするかということが問われることになる。

【瀧川委員】

これまでの意見で出ていた、町内会に加入している意義や不公平感、メリットデメリットという部分に切り込んでいないという印象を受ける。補助制度の見直しについても、いままでの延長線みたいなことで、何か新しい切り口があるのかと言ったら、あまりない。

このままでは今の町内会の脱会の歯止めをすることはなかなか難しいのではないかと思う。一步一步進めていかないとどうしようもないと思うが、何か決定的な新しい切り口が欲しい。

【谷口座長】

具体的に上の重点方針①や重点方針②に関しては、補助金の仕組みや具体的な事業の仕分けの話になってくるが、物足りなさで言えば、重点方針③や重点方針④に関して、具体的にどのように充実するのかというところまで示せると、次の可能性につながるかと思う。

重点方針③に関しては、テンプレートやガイドブックを作成し、これをどのように町内会の中に浸透させ、運用していくのかという、その伴走具合が町内会や市民にもう少し見えるとよい。

特効薬がなかなかない中での話なので、難しいのは重々承知している。

【鈴木委員】

これまでも、町内会長や役員になった人が少し困ったことや分からないことがあった場合、市民活動推進課の方に、相談の申し出があるか。

【事務局 亀田】

町内会からの相談ごとは、市民活動推進課が市役所の窓口となり、ご案内している。

【鈴木委員】

そういうサポート窓口があることを周知することで、役員を担う時の安心感につながると思う。町内会長は確かに大変な仕事で責任を伴うと思うが、長く住んでいる方だけではなく、引っ越したばかりでもやる気がある人はいるので、市民の方が知り得るようなものがあるとよい。

【天野委員】

重点方針④で、出産や引っ越しなどということで、これから地域に入ってくる、地域を担っていく世代に向けてとあるが、ここに「高齢者」や「シニアの世代」に向けた言葉を一つ付け加えるのはどうか。これまで支えてくださった世代の方は今でもとてもエネルギーがあり、元気な方がすごく多い。もちろん町内会の運営についてもよく知っていられる。役員ができないからやめるという声も出る中、そこをもう一つ踏ん張っていただくような言葉は付け加えられないかと感じた。

育成という部分に関して、上の世代からは、口伝えや伝承のような形で行われることが多く、それをいま私たち世代が、文章化や資料化して、次の世代に伝えていこうと頑張っている。そうしたところで何かいい方法、マニュアル化の方法を何か具体的にできないか。

【谷口座長】

マニュアル化も一つの方法である。また、属する組織の中で、やはり関係性を作っていく中で育っていくことを考えると、役を持ってもらいながらでしか育っていかない部分もある。その意味では、輪番で順番にいろんな役を回すというのは、まさに誰もがその一員であることを確認していく重要なプロセスでもある。

【鈴木委員】

義務ではないから入らない、という方が増えてきていると感じる。参加しやすい環境づくりの部分で、町内会の重要性に関して、例えば災害の発生時に、本来は差をつけるべきではないかもしれないが、町内会に加入していないと支援物資にタイムラグが出る可能性があるなど、危機感、緊張感を持ち、町内会が重要なんだと認識できるようなことも少し加えていただきたい。

【谷口座長】

災害があったときに、行政もできることできないことはある。町内会は住民の自治組織として、自分たちで決めることができるというのが前提であり、何かあった時に誰を優先するのかという時に、町内会に入っている高齢者からとか、子供たちからとか、いろんな順位をつけていくことは、町内会が判断、市民の方でやってもいいことである。

地方自治は、行政の自治と、一方で住民の自治というこの両輪であったときに、住民の自治が何かを問われると、市民の代表性を持った組織がちゃんと存在するということが前提となる。町内会に入らないというのは、ある意味ではその自治を放棄していくことである。何か困ったときに、個人の問題としてではなく、集団で声を上げるということが重要

になってくるときに、町内会の意味というのは間違いなく出てくる。

住民の自治の力が弱まることは何かあったときに自分たちが困るといふことになる。メリットデメリットという話ではなく、要は自分たちが自治の担い手であり、行政と向き合うときに、1人ではできないことを、町内会を通して言うことができるのだという認識を市民が持てるようになるとうい。

住民組織になかなか体力がなくなっていく中で、地域の自治の協議会を作ったり、地域担当制というような形で行政の方で担当制度を設け、行政が伴走する方法を取っているところもある。

ガイドブックやテンプレート、周知啓発も、町内会に全て任せるのではなく、もう一步踏み込んだ形で、行政がどのように頑張っている町内会の背中を少し押す、少し横で伴走するといったようなことが、重点方針③や重点方針④に見えるとよいと思う。

【鈴木委員】

加入に関して、市を通じて加入を取り次ぐことはしているか。

【事務局 亀田】

現在実施しているものとしては、転入転居者の方へ加入申込み欄やQRコードがついたチラシを配付し、申し込みがあった方の情報を町内会長さんに取り次いでいる。

【鈴木委員】

外国籍の方も、今後増えてくると思うので、例えばそういう方に対しても積極的に加入していただいたり、地域が受け入れやすい方向で、市にも考えてもらえるとよい。市として、外国語での案内は準備しているか。

【事務局 亀田】

外国人の転入者の方には6か国語で作成した「春日井暮らしのガイド」をお渡しし、その中に町内会の案内もしている。そのほか、町内会が独自で作ったチラシなどの翻訳事業も行っている。

【鈴木委員】

外国人の方とどう向き合っていったらいいのかというのは、町内会のみなさんも不慣れな方が多いと思うので、今後考えていかなければいけない課題なのかと思う。市としても町内会からの相談に応じてほしい。

【谷口座長】

外国籍の方との関係づくりについて、春日井市にもかなり外国の方がおられるので、ずっと定住する方であるならば、住民としてのメンバーシップをどうするかということを考えてもよい。

また、学生にしても4年間だけそこで暮らしているが、学生の力を借りるというような形で学生にコミットしてもらっているならば、いろいろな方が参加できる仕組みが求められる。

資料にある取り組みはいつから実施するのか。

【事務局 亀田】

できるものについては来年度から順次実施していきたい。

【天野委員】

春日井市の公式LINEを登録していて、大雨情報など非常に便利だが、チャットで質問というコーナーで、試しにそこに「町内会」と入力したら「勉強不足でよくわかりません」と回答された。それくらいは回答できるようにできたらよい。検索ワードとして入れるからには、町内会に対して興味があり、町内会員になるにはどうしたらいいかという気持ちを持って、検索していると思うので、是非とも早めをお願いしたい。

【谷口座長】

ネット上には町内会に関してネガティブな言葉が上がっており、逆境にあると感じるが、そうではない逆のメッセージを行政としても、住民としても見えるとよい。少なくとも「町内会」プラス「春日井市」のこの2つを検索ワードに入れるときには、春日井市としては町内会を応援しているという、ポジティブなメッセージが、ちゃんと上位に上がるとよい。

【鈴木委員】

町内会でおまつりを開催しているが、区町内会助成金は利用できるか。

【事務局 亀田】

組織によって区へ支払っている場合と町内会へ支払っている場合があるが、活動に充てる補助金なので、団体によって活用方法を決めてもらっている。

【鈴木委員】

盆踊りなどのイベントも減っているという話を聞く。町内会としては一番わかりやすいPRの方法だと思うので、開催に対する補助や、助成金の使い道の案内や事例の紹介がわかりやすくあるとよい。

【瀧川委員】

資料では助成金は現状維持となっている。アンケートの半分以上がこのままでいいという声もあるが、いまは老人会も少なくなり、子ども会もなくなり、財政的にもなかなか厳しい状況である。町内会のつながり、町内会員同士のつながりも難しくなっている。助成金を増額していただき、それをもとに、会員の親睦を含め、町内会の活動を充実させていきたい。後ろ向きに考えるときりがないので、前向きに考えてやっていくことが重要ではないかと思う。

【谷口座長】

活動助成金についてはここ20年、いろんな行政から地域の活動や市民団体への配付の仕方、助成の仕方を見ていると、一律に配るのではなく、きちんと目的を持ってやろうとしているところに手当てするという流れである。やりたい団体が手を挙げる制度をどのように作っていくのが求められる。住民たちが目的をもって行動したいときに使える仕組みがあってもよい。

重点方針に関して言うと、もう少し行政が組織連携の後押しをするようなところを項目として挙げることはできるのではないか。子ども会や老人会など、ほかの組織との関係を取り持つというような支援の仕方も

あると思う。

子ども会、老人会、地区社協などの地域のいろんな団体がサポートしながら活動していくことで、役員の業務分担にもつながる。

また、町内会と市の関係で言えば、広報、ごみ、福祉などいろんな課が関わってくる。まずそういったいろんな課が、きちんと町内会と伴走していくという感覚を持てると、もう少し会長さんも役員さんも、心理的に安心感が持てるのではないか。

【大西委員】

加入世帯数を見ると、20年間ほとんど変わっていない。なぜ率が下がるかということ、総世帯数が増えるからではないか。

転入する時点で、町内会に入ってもらえるよう案内してもらえればもっと上がると思う。難しいかもしれないが、転入される方の情報がもらえれば町内会側も勧誘に行くことができる。人口がどんどん増えているのに加入世帯数が変わっていない、そのギャップを埋めるために、どうにかならないか。

【谷口座長】

新規の方が増えていても加入率を維持している市町村もある。加入率が高い三河の方では、都市計画の段階から町内会加入に力を入れているところが大きい。新しい住民の方にちゃんと地域に入ってもらうためにどうするかという議論がされている。分譲マンションであっても、開発会社に対して、その町内会に入ることを前提とした分譲にすることを丁寧に説明することはできる。

まだまだ宅地開発が進んでいくと思うので、どのような方向性を示すことができるか。住民の自治組織を自治体の中でどう位置づけるのか、市としてどうするのかを考えてもいいかと思う。

【平出委員】

町内会が単独で祭りやイベントをやる際の助成制度はあるか。

【事務局 亀田】

現状としては、区町内会助成金を活用していただいている。

【平出委員】

昔は区の町内会の半分くらいで独自のおまつりをやっていたが、いまは区で一括して開催している。何かそういう助成制度があれば、また若い人が集まったような町内会ができてくると、独自でやることもあるかと思うので、町内会独自でのおまつりとかイベントの助成制度があるといいかと思う。

【谷口座長】

今回の検討会議は市民活動推進課の中で議論をするということが大前提であるが、市全体の補助金に関しては、この課だけでは判断できない部分もあるので、精査した上で、より住民が求めるものに傾斜配分していくなど、全庁的な町内会に対する支援の仕組みは今後の課題としてほしい。

【安藤委員】

そもそも論として、町内会活動で市としては何を求めるのか。

【事務局 亀田】

今回の意義の中にも記載があるが、地域の意見集約であるとか、情報のやりとりが一番重要なことであると認識している。

【安藤委員】

現実には、高齢者の方が、役が回ってくるからもうやれないと退会すること多く、課題となっている。ここで町内会の意義を整理してもらっているが、若い人には、町内会に入るメリットをもう少し強く伝える手段が必要だと思う。

先ほどの加入世帯数がほとんど変わらないというのも、表面的にはそうだが、世帯数の中の分析をすれば随分違うと思う。新たに加入した方も結構いらっしゃる。マンションごと加入してもらえないような例もあるので、義務化はできないかもしれないが、出来るだけ組織してもらおう

よう働きかけてほしい。

また、防犯灯の補助金について、見直しの内容を教えてください。

【事務局 亀田】

補助率に関しては、現在調整をしている。

【安藤委員】

目標に「持続可能な町内会活動」とある。持続可能という言葉が使われているが、もう少しわかりやすい表現の方がよいのではないか。

【谷口座長】

「持続可能」や「地域」といった言葉は、元来わかりにくい言葉として行政は使ってこなかったが、近年積極的に使われている。伝わりにくくなってしまう懸念がある言葉を使う時は、丁寧な説明が求められる。

また、分譲のマンションを作る時にどのように関係を作っていくのかということは今後も必要だと思う。

例えば、協議会などの、新たな住民自治組織を作った場合でも、最初は意思を持った人たちで集まってうまくやっていくが、やりたい人がやっているがゆえに、結局人の交代が起こらなくなってくるという場合もある。正解があるわけではないが、「輪番」という方法は、誰もがちゃんとそこの一員になっていくプロセスとしては必要な制度だと思う。

自治の担い手として、町内会は、行政にとっても住民の代表性をきちんと担保した自治の単位である。保守的かもしれないが、私は、愛知県はそういった町内会自治会を大切にす地域だと思っており、春日井市としても、それを見直しながら、持続させていきたいということなので、その方向性は検討会議としても認めていただければと思う。

【吉田委員】

メリットデメリットのことで議論を始めたら、時間内では収まらないかもしれないが、そこが多分この会議の一番欲しかった部分ではないか。災害時の話はすごく暴力的にも聞こえるが、それぐらい一石を投じないと、多分何も変わってはいかないと思う。今後も様々な形で継続的に検

討していく必要がある。補助金も大切なことだとは思いますが、私たちが目指してきた、欲しかった答えは少し別物だと思うので、前に進むためにも必要だと思う。

【谷口座長】

議論を継続すべきという意見は、今後、行政が判断することになるかどうかと思う。委員の皆さんの意見が反映される形で、報告書に示していただけるとよい。

【天野委員】

これまでの意見にプラスして、絶対にここにいる委員の皆さんも、いま町内会長さんをやっている方も、何かしら、やってよかった、楽しかったと感じることは絶対にあるはずだと思う。そういう言葉が、メリットとして強く出ていないのがもったいない。デメリットや加入率というような言葉にこだわるのではなく、町内会はこんなに楽しいんだよ、自分にこんなにいいことあるんだよという部分に、注目する、視点を当てるという方法をとると、それを見た、入っていない方が、町内会は面白そうとか、実はいいことがたくさんあるのねというふうに、目を向けてくれるというような場面になるかと思う。

実際に、なかなか役員をやるのはしんどいと言っていた年配の方がいらっしゃったが、イベントに関わって、楽しさを感じられたことでそれ以降の活動にもとても積極的に参加してくださったことがあった。楽しい部分、よかった部分、今までやらなかったけど一回やってみたらこういういいことがあったという経験者の声、事例をどんどん発信する場を作してほしい。

【谷口座長】

確かにアンケートの中にもポジティブな声もたくさんあった。そこを少しクローズアップする報告書の示し方というのはあるかもしれない。やって楽しいというような声で、ちょっとした背中を押すきっかけになればと思う。

上記のとおり第4回春日井市町内会活動支援検討会議の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、出席者2名が署名する。

令和5年10月3日

座長 谷口 功
委員 平出 幸広